



博物學雜誌

第百拾八號

明治四十三年五月二十五日發行

十

學說

◎蜘蛛類追記

岸田久吉

*Zinnia mouhaous n. sp.*

和名 ナガムネハヘトリクモ(長き胸)

産地 越後國古志郡宮地山(一九〇七年六月二日中  
村正雄氏採集)ホルマリン漬標品により本年一月二  
日記文を作る

學

說

(蜘蛛類追記)

雄全長五・五ミリメートル。頭胸部上面長さ四ミリメ  
廣さ二・五ミリメ。稍方形に近き楔形帶黒濃黒色前方  
に高くなる、後列側眼は全長三分の二前方にあり、前  
列側眼と横の短形を作る。前列中眼は淡黄色、他の  
眼は暗黒色なり額は極淡き。節色胸板小形、楕圓狀、  
帶黒セビアにして毛少し。上顎圓柱狀、開かず、セ  
ビア色、下顎及唇は稍淡し。觸鬚全長二ミリメ少し  
く大上面黄白色先端及下面は淡きセビアにしてその  
部の毛は黒褐色。步脚地は淡き節色に近き淡きセビ  
ア色、先端に近づくに従ひ濃くなる、脛節及蹠節に  
は刺あり。第一對五・五第二對五第三對七、第四對  
七、五ミリメ

腹部 上面長さ二・五ミリメ廣さ二・二ミリメ卵狀圓形地は黒き濃セビア色、頭胸部上面と共に褐色の毛あり 下面淡きセビア色、殆ど淡黄白色に見ゆ、黄白色の長毛にて蔽はる蜘蛛も同じ色

*Silicicus japonicus* n. sp.

和名シロジウジハヘトリ(白十字の字)

産地 越後國長岡市(一九〇八年八月八日中村正雄氏採集)ホルマリン漬標品により本年一月八日記文を作る 雌全長三・五ミリメエトル 頭胸部上面長方形稍後方細み、長さ一・五ミリメ廣さ一・二ミリメ淋しき光澤無き褐白色、黒点にて大部は蔽はれ、僅に十字に地を露せり 後列側眼は中央よりも前にあり 前列中眼は黄色、他は暗黒色 額は淡黒 胸板光澤ある黒セビア色にして毛少し 上顎小形圓狀、開かず、黒セビア色、下顎及唇も同色 觸鬚全長一・七ミリメ末節を外方より見るにうすかま狀の大なる突起あり、交接用の附屬物は下面より見るに圓狀にして可なりの厚さあるか如く内側に偏より前方より高まり來れる丘陵上にV字狀(草体)の精管見ゆ 歩脚淡セビア色の地、淡褐白色の毛甚だ多し第一對

四、第二對四、第三對三・五ミリメ

腹部 上面長さ一・八ミリメ廣さ一ミリメ卵狀紡錘着色は頭胸部に同じ、但し、特別に不安定(?)なる横倒せるE字狀の紋あり 側面卵狀披針形 下面淡黄白色、光澤無し、所々に黒點あり 蜘蛛は柱狀、半ばは輪廓外に出づ、黒セビア色

*Silicicus nakamurae* n. sp.

和名ベニスデハヘトリ(紅色の條紋)

産地越後縣伏山細見(一九〇八年九月二十六日中村正雄氏採集)ホルマリン漬標品により本年一月八日記文を作る 雌 全長七ミリメエトル 頭胸部上面長さ三・五ミリメ廣さ二・五ミリメ長方形後方の縁は闊し、地は淡暗淡紅紫色、眼域及その後方には黒斑及褐色の毛あり(殊に前方に)、後外縁は細く黒し 前列中眼は最大 同側眼及後列側眼は之に次ぎほぼ同大、以上六個は濃紅紫色 後列中眼は最小にして暗黒色なり 胸板長楕形着色は上面の地と同じ額は淡枯草色 上顎短く太き圓壘にして開かず、爪は帯褐色地は共に上面に同じ下顎見ゆる部分は圓狀 下唇は楕圓形

博物學雜誌第百拾八號

後縁襪狀、着色は上面に似て淡く帶褐色なり。觸鬚は全長二・五ミリメ白及黒の毛あり、末の方は帶褐色、下面は甲殼の色に同じ。步脚膝節より先は帶褐色、基節轉節及跗節の外は刺毛あり、第一及第二對の腿節は扁平なり。第一對六・五、第二對六・五、第三對七・五、第四對八ミリメ。

腹部 地は淡褐色、上面長さ三ミリメ廣さ二ミリメ位、前側方は白し、中央を縦に方針形にのこして其の面側は太くじみなる黄紅色の帯に着色す、その帯の内縁は黒セビア色。側面矩形、後方は斜走する線されくに見ゆ。下面や、暗色を帯ぶ、卵狀必臙形。陰部は一個の盤狀をなし圓形中央に縦に重なる二個の隆起あり、前方のものはや、大にして更に小隆起を生ず。蜘蛛は太き圓柱狀。

*Tetlophanus japonicus* n. sp.

和名コクロハヘトリクモ(小形にて黒色)

産地 越後古志郡宮地 (一九〇七年六月二日中材正雄氏採集) 本年一月九日ホルマリン漬標品によりて記す

雌全長五ミリメートル以内 頭胸部上面卵狀長方

學 說 (蜘蛛類追記)

形、長さ二ミリメ廣さ一・五ミリメ。眼は半より前に在り、地は漆黒色、前方には茶褐色毛在り、額は褐色、前列眼は暗色、半透明。後脚膝節は黒色、眼域は額と同色。頭部は高くなる。胸板暗褐色に近き暗淡セビア色、前方廣き卵形、白毛催かに在り。上頸圓柱狀開かず、淡暗褐色、爪も同色、下頸及唇は更に淡し、唇は三角形。觸鬚淡褐色、上面には長さ白毛あり全長一・二ミリメ。步脚細長地は淡セビア色、脛及跗節の始末は濃セビアの輪紋を有す、褐白毛あり、跗節の上面には三個の黒色なる刺あり。第一對四、第二對三、第三對三・三、第四對五・七ミリメ。

*Marjissa magna* n. sp.

和名オホハヘトリクモ

雄全長一—ミリメートル 頭胸部 上面や、長楕圓形、長さ四ミリメ中央に廣し、長短の毛密邇して生じ、灰褐色の地に淡茶色の紋を描出するが如く見ゆるも實は明かに瞥見の結果と異り地は黒褐色を帯びたる紅色にして左右の縁に近づくに従ひ次第に黒色を帯ぶるの度を増す、其他所々黒色を帯ふ 毛に二類あることは前述の如く長毛は黒く、短毛は鱗片狀白又は灰褐色絹糸様光澤あり、脚微鏡下にて美しく見ゆ、頭部と胸部との界は殆ど見分け難き程なり 眼は前列中眼最大、次に同側眼、次に後列側眼、同中眼は最小なり、前列眼は卵白色、後列側眼は淡茶色、同中眼は暗色なり 排列は前列中眼最も先に、其兩側少しく後方にひいて同側眼あり、後列中眼は兩列側眼の丁度中間に位置し單顯微鏡にては見難し後列側眼のみは外斜上の方向を少しく後方へ回して軸を向けたり、他は正側又は正前を指す 前列眼相互の間には長さ褐黒色の毛叢生す 眼基は蟲眼鏡下にては濃褐紅色但し複顯微鏡下にては黒く見ゆ、光澤強し 額には帶黃の淡岱赭色なる毛左右に瀕りて生じその色に見ゆ 頭胸部は一体に凸圓狀に平扁にして最

も廣きところは三・三ミリメ程あり 胸板甚だ小形、將棋の駒の如き形をなし第三脚に終る、褐黒色、光澤殆ど無し、毛も少く且あるものは短し 上顎柱狀大ならず帶黒濃血褐色是も同色其の先端は赤し 下顎は觸鬚の轉節迄至り先端に近き部分のみ下面よりは見ゆ、先端は鈍圓頭、内方の縁はやや淡し、唇も先端の方のみ見ゆ、尖圓頭、前縁は淡し 毛は下顎唇共に在り、細長絹糸様、無色、無光澤に近し 觸鬚全長三・五ミリメ地は口器と同色、光澤あり、各節共前節との界に近く黒味多し 白と灰茶との鱗片狀毛及普通の黒き刺狀毛とあること甲に同じ 先端には長さ中位の刺狀毛密生して爪の存否を確め得ず 步脚 黃褐色、所々又黒紅を帯ぶ、腿膝脛の三節は各脚共非常に肥大す特に第一對のは大なり、就中其の腿節は非常に大形にして下面より見る時は驚かる程なり 基節は皆第三脚の腿節程の太さあり、第一對のは最も太く、第三對のはや、細く、殘の二對のは殆ど相同じ、全長第一對一〇、第二對九、第三對八、第四對九・五ミリメ餘、趾節には刺あり 腹部 上面披針狀長楕圓形、長さ七ミリメ廣さ三・五

ミリメ大部は褐黄白色の地にして其の中に濃淡のセピアを以て美しく紋を描出す、心線は濃セピアなり、  
 兩側は黒く漆塗の如し 側面狭長なる披針形、上部  
 漆黑色、下部暗淡褐色 下面卵狀長楕圓形、中野は  
 淡褐色其の中央は大きく舌狀に濃し 紡績突起は側面  
 のセピア層に在り、各個はセピア色、圓柱狀、細長  
 なり、基部及先端はや、淡色、全長一ミリメ、上面  
 よりは僅かに見ゆ 陰帯の前方は帯淡紅の淡血褐色  
 エビジンは半球狀に隆起し、後方に高く其の頂點  
 は缺けて穴となる、その穴の前方は少しく濃色 陰  
 帯より脚疣の後端まで五ミリメあり

產地 越後國長岡市（一九〇九年五月二十三日中村  
 正雄氏採集）本年一月二日より五日までホルマリン  
 漬標品によりて記文を作る イギリスに産する *Micro-*  
*musca* に近縁なり

*Thermophilus nigra n. sp.*

和名 ミジンハ（微塵の義）

產地 越後國古志郡片貝村（一九〇八年五月三十一  
 日中村正雄氏採集）本年一月八日ホルマリン漬によ

學 記 (均蝶類追記)

雄全長四七・ミリメエトル 頭胸部上面殆ど四角形  
 に近き梯形、長さ二ミリメ廣さはや、大、地は濃黒  
 褐色殆ど黒色の如く見ゆ 黄毛あり、ために肉眼に  
 ては黄色に見ゆ、後列側眼は最も廣きところに在り  
 て黒色 前列側眼は枯草的無光澤の黄褐色 胸板紅  
 黑色 上顎は黄白色の長毛にて蔽はる、下顎の外よ  
 り見ゆる部は三角形、地色は背甲に於けると同じ  
 觸鬚肢狀、狭細、赤褐色、全長一・八ミリメ 歩脚  
 背甲と同色、但膝節と跗節とは赤褐色、第一對の腿  
 節より脛節までは極めて太し みな膝節と脛節とは  
 殆ど同長 第一對四・五、第二對三・三第三對三、第四  
 對四・三（ミリメ）

腹部上面長楕圓形、後方にや、細くなる、長さ三ミ  
 リメ、廣さ二・三ミリメ 下面エビジンは三角形圓  
 形、少しく隆出し、黄色、中央にい形の紋あり、穴  
 は中線上の後端に在り 脚疣は濃セピア色、や、長  
 き圓柱狀 中村君曰く本種は杉の林に生活し巢は朽  
 葉の中にありて袋狀中の卵は褐色なりと

*Pezomachus quadricornis n. sp.*

產地 越後國長岡市（一九〇八年五月三十日中村正

雄氏採集) 本年一月九日ホルマリン漬によりて記文を作る。

雌長七ミリメートル 頭胸部上面長さ三・五ミリメ、廣さ二・五ミリメ、頭部方形、眼は黒色、後列、中眼は最大次に同側眼、前列眼は一直線に在り、同大、最小 眼域には黄毛あり、胸部は淡褐色、無光澤、中央縦に高し、縁は黒し、圓形、中野にはセビア色の帶二個及幾形の紋狀帶二個ありて並行す、胸板圓形、前方少しく細長、褐色あり 上頸圓壱狀、少しく開く、黒毛あり、爪は濃褐色、下頸楔狀倒卵形、唇は圓筒狀、共に背甲と同色、黄毛あり 歩脚及觸鬚上面と同色、脚の脛趾には濃セビア色の刺あり、觸鬚四ミリメ、第一對一一、第二對一〇・五、第三對一〇、第四對一三ミリメ

腹部上面卵形、長四ミリメ、廣さ二・五ミリメ、前方や、角張る、黄白色、濃セビアの枝狀紋あり、毛密生す、側面矩形、前上方枯草黄色、他は下面に同じ、下面のために黄白色に見ゆ、地は濃セビア蜘蛛は淡し、四個は大形 エビジンは倒にせる凸字の如し、字の前なる三點は穴となる

*Oculothorax japonicus* n. sp.

和名アカムネクモ(赤き胸の義)

雄全長三・五ミリメートル 頭胸部上面三角狀卵形、前方次第に圓味を帯びて細る、長さ一・五ミリメ、廣さ一ミリメ、帯黒の濃血褐色を呈す、頭部の中央は最も高し、胸部との界に縁に近く深き溝之れを爲し、胸部の放射線は辛うじて存在を知り得る程なり 眼は前方一帯に廣がり二列に並ぶ、淡黄色 胸板蕪青形、但し殆ど平坦、前縁は波狀をなす、濃黒褐色 上頸角壱狀、遊離端僅に開く、濃褐色、下頸斜軸長方形、遊離端にて相接近す(雌のと似たり)刺無し、褐色、下唇半圓形(雌のより淺し)、淡暗褐色 觸鬚肢狀、細長、長さ一・五ミリメ、淡暗褐色 歩脚淡黄褐色、基節は皆同じ程の太き漸次に細る、趾節にも色極無し、脚端には三爪あり、長さ第一對四・八位、第二對四・五、第三對四、第四對四・六位ミリメ 腹部上面卵狀圓形、前方に細る、長さ二ミリメ、廣さ一・五ミリメ、淡褐黄色を帯べる濃き暗色、白毛僅に在り、帯べる色は前方に明かにして个狀に特に明かなり、蜘蛛は上面より見得ず、側面橢圓狀、長卵形

前上方に細る、上面と同色。下面大體圓形、帶淡暗紅の黒色、細長なる黄白毛可なりに在り、蜘蛛は下面内に在り、黄褐色、中隆も同色、卵形。蜘蛛の前方にその全体と殆ど同大なるクリベルラム様隆起僅かに區別せらる、淡色、三角形、後縁は高き波の如し。

雌全長三ミリメートル以内、普通は二・五ミリメートル。記文を省略せるところは雄と同じ。頭胸部上面廣卵形、長さ一・五ミリメートル、廣さ一ミリメートル、頭部外角圓し、頭部にはその中線上に（後方に近く）直徑〇・ミリメートル許りの橙黄色の圓紋あり、一見以て雄と區別すべし。眼は黄色、眼域は黒味を帯び、眼列は雄のより小なり、上顎の一部上面より見ゆ。胸板雄のよりやや短。上顎卵狀外方に偏しや、開く、内面中央に刺あり、また雄と別つ他は雄と同じ。觸鬚淡黄色（歩脚と同色）、全長一・五ミリメートル、末節の交接器はや、複雜なり。歩脚雄のよりも淡色、長さ第一對四・五、第二對三・五、第三對三、第四對四・五ミリメートル（基部は皆〇・五ミリメートルをこゝにて省きたり）。

腹部のより遙かに狭細長さ一ミリメートル。上面中線は明

瞭下面肺は淡褐色、その間は黒し。蜘蛛は雄のより狭長なり、中隆はツバキの葉尖の如し。クリベルラム様体は明かに區別せられ雄のより濃色。附記 雄のエビジンは三角狀圓形にして後縁に近く隆起し丛狀の陥入あり。

產地 越後國長岡市（一九〇八年五月三十日）中村正雄氏採集。本年一月六日記文をホルマリン漬標品多數によりて作る。

本種は *O. bipunctis* Böes et str. に近縁。觸鬚の交接器はデエニッツ及ストランド兩氏の *Erigonella* のに似たり。

*Aranea tibiphantiformis* n. sp.

本種は *Tibiphantes* affinis Dufour et Strand 1905 (*Böes und Str. Jng. Spin.* 1905, I, 380, Pl. 4, Fig. 34) と恐らくは同一種ならむ。されども原著者等は *Beschreibung und selbst. Fundort geben* と記し鬮齒も全形、眼部及跗節末端を描けるのみにて果して同一種なるやを確言し難し。兎に角氏等の種は何等理學的意義を有せぬもの故、左の記文に適合するくもを以て新考定の學名にあたるものとせり。この名は、

明治四十二年年中より使用し居るものなり

產地 丹後國加佐郡高野村(一九〇九年七月十八日及十二月二十六日岸田久吉採集) 越後國長岡市(同年八月二十五日中村正雄氏採集) 記載は丹後産の生活せる標品によりて作りしものなり

博物學雜誌 第一百八十八號

雄全長七・五ミリメートル許り 頭胸部上面深黑色にして光澤あり、頭部は甚しく突起し、眼は黑色その排列は他のおにくも屬の種と殆ど同様なれとも唯後列中眼兩個の甚しく近きは少しく注意を惹く點なり、胸部の筋線も可なり明瞭 胸板褐色步脚の付元附近は多少皺をなす 上顎黑色極めて僅かに褐色を帶ぶ、下顎外方基部は黑色、其他は黃褐色、方形なり、下唇は三角狀半圓形、前縁に沿ひて黃褐色、他は黑色 觸鬚は黃褐色、先端に近づくに従ひ血褐色となる 步脚基部淡黃褐色、轉節黃色、腿節第一第二脚のは基部は黃褐色、末半は血褐色、第三脚のは末やや褐色、第四脚のは第一第三脚のの中間位、膝節第一第二脚のは血褐色、他のは黃褐色、脛節淡褐色、末端に近く黑色、蹠節黃褐色、第四脚のは末の方黒し、跗節第一第三第四脚のは黃褐色にして末の

み黑色、第二脚のは末は黒褐色なるを異りとす、長さ第一脚一〇、第二脚八、第三脚五、第四脚七・五ミリ 腹部上面地は白色、或る雞卵の卵殻の如し *Bov. n. Str. Jap. Squin. 1005. Pl. 4. Fig. 34.* に示さる、如

き斑ありてその色は黒褐附近は不整に黄色を帶ふ 側面上面との界にめぐりて黒又は黒褐色の太き斑狀線あり、下面との界は黒褐色の太き斑狀線より成る 斑を有す、上述の二線の間は黃褐色にして赤褐色を以て圍める小き多角形を描けり 下面中央には縦走する太き褐色條ありその條陰帯の直後にて廣し、それと側面を區別する界線との間は黄色 蜘蛛は暗黃褐色その周圍は黒褐色 外形は多少バラバラなクテナ屬の諸品に似たり

*Araneum. sp.?*

產地 上野國金精峠(一九〇八年八月三十日中村正雄氏採集) 二箇のホルマリン漬標品によりて記す 雄全長一五ミリメートル 頭胸部上面淡紅紫黃褐色、形狀及眼列等は他の同屬のものと同じ、眼の基部は稍紅色なり、中縦線及中溝は明瞭、放射線は消



淡色但し明瞭、白色にして絹糸様光澤ある長毛多く生ぜり。胸板は黒色、毛殆ど無し、心臟形前方に廣く、その中央は少しく剝られたり。上頸柱狀、淡赤黃褐色、爪は赤黒色、下頸は遊離端に開く、唇と共に凹字形に前方の縁は暗紅色を呈す、内方に黃褐毛あり、其の他の大部は黒色。觸鬚黃褐色、黒長毛あり、末節は腿節より稍長し。步脚基節は皆圓錐形、大なり腿節は紫紅黃褐色、他は皆黃褐色、節末は黒色、第一脚二八、第二脚二三、第三脚一五、第四脚二三ミリメ。

腹部上面梨子形長き白色の絹糸様毛あり、地は黃褐暗黃色、中央を縦に二行に相對せる六個の黃紋と眞の中央を紋の對せるところを描いて連續せる線紋とあり。側面卵狀楕圓形、上面に近く暗黃色、後下方は赤褐色にして暗色を帯ぶ、三條の褐黒色なる斜走紋は上前方より蜘蛛の少しく前方に亘る。下面紅暗褐色、蜘蛛器の前半周は黒色、陰帯の直後は前方廣き圓狀心臟形とそれより蜘蛛前半周の前方とを連絡する帯を黒く描出し、心狀紋の兩側は明かにいの字狀の紋を作る。エビジンは一・八ミリメ許りの爪を有

種 蝶 (顯微鏡の研究)

すその色紅、遊離端に近く凹みあり。蜘蛛は四個のみ顯著、方圓柱二節黒色中前方の隆起は葉狀、暗色。肛門も蜘蛛の如く隆起す(和名無し) 附記

二月六日長岡發中村正雄氏自筆の書信中次の句あり(前略)和名なし *Disura aubiformis* の和名は小生に命名の自由を與へらるればきしたくもと致度候(後略)乃ら氏の命名に従ひ向後右の種にこの和名を用ゆ(完結)

◎顯微鏡の研究(二)

杉森 粟川

第二章 構造學

方今使用せらるる顯微鏡には學術研究用、醫學實驗用等其の目的によりて優劣精粗種々ありと雖も、其の内容の精巧、外部の裝飾に變化あるに過ぎずして之が基本構造に於ては決して變ることなし、故に今模式的の顯微鏡とも稱せらるるライツ中形顯微鏡の